世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

2歳児保育における幼稚園教諭の保育観に関する一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 榎田, 二三子 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/494

2歳児保育における
幼稚園教諭の保育観に関する一考察

A Study of Kindergarten Teacher's Values for the Two-year-old Class

榎　田　二三子*
ENOKITA Fumiko

1　研究課題と目的

1－1　幼稚園における2歳児保育の課題

筆者は、2014年度本学教職研究センター紀要において、幼稚園における2歳児保育の実態と2歳児保育における幼稚園教諭の専門性に関する研究動向について執筆した[1]。

平成24年度の文部科学省の調査では、公立幼稚園の69.2%、私立幼稚園の78.0%で2歳児の未就園児保育を実施していることが明らかになった。また2歳児保育や未就園児保育に関する研究動向から、2歳児保育や担当教諭の専門性に関する課題として、下記のようなことがあげられた。

一つは、2歳児保育の特性についての理解の必要性である。2歳児は、排泄、食事、着替えなどの日常的な生活行為を習得する過程にある。保育所の2歳児保育では、家庭と連携しながら子どもの発達を援助していく。しかし家庭で育つ子どもの場合、親子関係の形成や子どもの生活行為の自立へ向けた取り組みなどにおいて、近年問題状況が取り上げられており、そのような2歳児を対象にしているのが、幼稚園の2歳児保育・未就園児保育である。また、幼稚園教諭が2歳児保育について学んでいないことによる、保育内容や保育者の役割連携についての理解不足もある。

2つ目は、保護者支援を視野に入れた保育の必要性と研修の充実である。保育所で0～1歳を過ごした子どもと家族は、それぞれの家庭の考え方はありながらも、保育所の保育者と相談しながら協力して子どもを育てている。そのような意味においては、多様性はありながらも子どもの日常的な生活行為の習得や育ちにおいて、家庭の影響は小さいと言えるだろう。しかし幼稚園における2歳児保育・未就園児保育では、それぞれの家庭状況や子どもの育ちは保育所の2歳児保育より多様であろう。また専業主婦の持つ悩みへの理解も必要である。このような子どもの家庭状況や育ちを把握した上での保育や保護者支援が必要であり、研修の充実が望まれる。

1－2　研究目的と方法

前述のような幼稚園における2歳児保育・未就園児保育の課題を踏まえ、本研究では幼稚園での2歳児保育・未就園児保育についての幼稚園教諭の保育観を明らかにし、2歳児の実態に照ら

*武蔵野大学教育学部

し合わせ今後の課題を検討することを目的とする。

方法としては、幼稚園教諭免許状を所持し、A大学で実施された特例講座で保育士資格を取得しようとしている受講生にアンケートを実施した。実施した調査は下記の2調査である。

調査１：「幼稚園の2歳児保育や未就園児保育で大切にしたいことは何か」という問いに対して自由記述で回答を求めた。自由記述から、大切にしたいことを381件抽出しラベリングをして分類分析を行った。アンケートの実施期間等は以下のとおりである。
実施期間：2014年3月、2014年6月　乳児保育の初回授業時に実施
配布回収数：126

調査２：2016年度特例講座乳児保育のグループワークにおいて、資料を収集した。受講生の現在の勤務先により、保育所グループ（3グループ、12人）と幼稚園グループ（4グループ、18人）に分け、保育所および幼稚園における2歳児の春の様子を書きだしてもらう。書かれた事項99項目に対してラベリングをして分類分析を行った。

２　調査１「2歳児保育において大切にしたいこと」について

２－１　調査結果

調査1「2歳児保育において大切にしたいこと」において抽出した381件のデータを分類した結果は、以下の表のとおりである。

表１　２歳児保育において大切にしたいこと

（N=381）

子どもの発達	発達	言葉	言葉を引き出す 言葉や感情表現を促す	21	98 25.7%
	発達	身辺自立	身辺自立ができるようにする 自分でできることを増やす	21	
	発達	生活習慣	規則正しい生活習慣を身に付ける 挨拶ができるようにする	16	
	発達	社会性　躾	社会のルールを教える やっていいことと悪いことを伝える	15	
	発達	表現	自分が出せる 自分のやりたいことを表現できる	8	
	発達	個　個性	ひとりひとりの発達ペースを大事に 一人一人の個性を大切に欲求を受け止める	7	
	発達	自信	できた喜び、やる気へ	5	
	発達	身体・自立など	外で体を動かす 元気に外遊びをする	5	
	関係	子どもとの信頼関係	親以外とのかかわりを楽しむ スキンシップを取り仲良くなる	39	
	関係	安心	安心して過ごせる 一人一人との関係を築き、安心感を与える	12	

保育者との関係や援助	援助	個別	ひとりひとりに合わせ援助 個々の発達に合わせて接する	8	63 16.5%
	援助	自信	できたことを増やし、ほめる	3	
	援助	興味関心	子どもが興味を持てるような会話や行動をする	1	
子ども	内面	気持ち　受け止め	気持ち、感情を受け入れる 心の声に気付いて寄り添う	30	53 14.0%
	内面	興味関心	色々なものに興味関心を持ち関わる やる気持ちを育てる	13	
	内面	楽しむ	楽しかったと思えるように 保育を楽しむ	4	
	内面	気持ち　表現	子どもの思いを実現できるように	2	
	内面	その他	自我形成への援助 発達の沿った援助	4	
人間関係（友達）	友だち	関わり	子どもと触れ合う 友達の存在に気付く援助	24	46 12.0%
	友だち	楽しむ､共有､刺激	友だちと遊びを楽しむ 子どもが場を共有し存在を感じあうこと	12	
	集団生活	慣れる	集団生活へスムーズに入れるように 幼稚園にスムーズに入園できるようになれる	6	
	集団生活	経験、社会性	集団生活を知る 集団で経験	4	
環境	環境	安心	安心して過ごせるように見守る 安心して過ごせる環境	18	41 10.8%
	環境	楽しむ	楽しい場所とわかってもらえるように 幼稚園は楽しい場	7	
	環境	家庭的	家庭的な雰囲気 家と同じに遊べる環境	4	
	環境	もの	発達に合った遊具	3	
	環境	落ち着いた	落ち着いた環境 落ち着く場所やお気に入りのものを見つけられるように	2	
	環境	その他	共に遊ぶ喜びを味わえる環境	7	
健康	環境	安全、怪我	安全な環境 怪我、ケンカにならないように	23	30 7.9%
	身体	健康管理	体調の把握 様子に気を配り健康管理	6	
子ども	遊び	楽しむ	遊びを楽しむ 楽しいことが見つけられるように	6	24 6.3%
	遊び	保育内容	いろいろ経験できる 遊びから体験的なことまで設定する	4	
	遊び	五感	五感の発達を促す体験 五感を使った遊び	4	
	遊び	自然、外	外遊び、自然の遊び 外で元気に遊ぶ	2	
	遊び	じっくり	ひとりでじっくり遊べる遊び 興味あることにじっくり取り組む	2	
	遊び	その他	好きな遊びを安心してできる いっぱい活発に遊ぶ	6	

保護者	連携	連携	保護者に様子や好みを聞き把握 嫌いなものなど保護者と連携して	4	15 3.9%
	支援	安心	保護者が安心できるように 保護者緊張をほぐす言葉かけ	3	
	支援	交流	保護者間のコミュニティを作る 保護者とのコミュニケーション	3	
	支援	相談	保護者の悩みの解消 保護者へのアドバイス	3	
	支援	理解、支援	集団の中での育ちを保護者に理解してもらう	2	
人間関係 （親子関係）	親子関係	分離	親からゆっくり分離 母子分離が苦痛にならないように	6	11 2.9%
	親子関係	親子関係	親子関係の尊重 親子のかかわりを見る	4	
	親子関係	安心	親子一緒に楽しく安心して過ごせる配慮	1	

・子どもの発達についての項目割合が1/4を占めた。詳細としては、言葉、身辺自立、生活習慣、社会性や躾というものがそのうち2/3であった。
・もっとも多かった小項目は、保育者のなかの「保育者との信頼関係」で、全体の10.2％であった。母親と離れ初めて集団保育に参加する子どもとの信頼関係を築こうと、スキンシップをとったり、名前を呼んだり、一緒に遊んだりと安心でき親しみを持って頼ってもらえる存在になろうと重きを置いている。
・また安心して過ごせる環境づくりなど「環境　安心」の分野（4.7％）と安全への配慮「健康安全」の分野（6.3％）を合わせると11.0％であり、安心して安全な環境等への配慮も低年齢であるために重要視されている。
・一方で、人間関係における「友達との関わり」や「楽しみ、共有、刺激」は、9.4％、遊びに関する回答は6.3％に留まった。
・また保護者への支援は3.9％であり、親子関係に関する配慮を合わせても6.8％である。幼稚園における2歳児保育は子育て支援の一環と位置付けられているが、直接的な保護者への支援への回答は一番低くなっている。

2－2　考察

1）基盤となる関係や環境つくりが重視されている

幼稚園における2歳児保育・未就園児保育において、保育者が重きを置いていることは、回答数の多い順に「子どもとの信頼関係」、「子どもの気持ちの受けとめ」、「友達との関わり」、「けがや安全への配慮」、「言葉や身辺自立の育ち」、「安心できる環境」であった。保育者との関係を作り、そのためにも子どもの気持ちを受け止め、安全・安心に気遣い、基盤となる関係・環境をつくることに力を注いでいることがわかる。しかし、これは一年間を通じて重視すべきことだろうか。年度の初めに重点的に力を入れ、その後基盤ができたら配慮しつつも子どもの遊びや環境構成へ視点を移していくべきであると考える。

2）保護者との連携を図る必要がある

また幼稚園の2歳児保育・未就園児保育は、子育て支援としての位置づけとなっていること、2歳児保育・未就園児保育の形態は、毎日保育が実施されている割合が、2歳児を受け入れている幼稚園のうち44.5%、週に3，4日が12.0%、週に1，2日が23.8%となっており多様であること[2]、保護者との分離か否かについても幼稚園の考えによってその方法は異なること、という背景を持つ。子どもの言葉や身辺自立の発達について、保育の中で保育者が頑張るだけでなく、どのように子育てしたらよいか保護者に伝えるなど、家庭とも連携し子どもの保育にあたることが必要であろう。

文部科学省　初等中等教育局長の通知「幼稚園を活用した子育て支援としての2歳児の受入れに係る留意点について」[3]にも子育て支援としての受入れであることから、家庭との連携について子どもの保育内容よりはるかに多いスペースが割かれ、基本的考え方には「親子で一緒に活動したりして、保護者が子育ての喜びや楽しみを味わう機会を作りながら、親として成長できる場を提供していくようにすることが大切である」と述べられている。家庭との連携の内容についても、「保護者との信頼関係の構築」、「保護者の育児不安への対応」、家庭の教育力の再生・向上につながる子育て支援として「親子登園の機会の提供」、「子育てを話し合う場の提供」、「子育てに喜びと希望を持たせる取組」があげられ、子どもの育ちへの援助を保護者と連携して行うように示されている。

調査1で、保育者が大切にしたいこととして、保護者との連携・支援に関するものが10%に満たないことから、2歳児保育・未就園児保育担当者として、保護者との連携をさらに図ることが課題としてあげられる。

3）文部科学省通知における重視したい事項との関連

前述した文部科学省の通知の「基本的考え方」において、子育て支援としての受入れであることと、「幼児との一対一の関係を大切にして信頼関係を築き、幼児が安心して自分の気持ちを表したり、自分の思いで行動したりするように援助することが大切である」と述べられている。調査1で明らかになった保育者が重視している事項は、ほぼ一致した方向性である。

しかし、それに続いて書かれている基本的考え方では、生活習慣、遊びなどについても述べられており、内容に関しての記述では次の6項目があげられている。

①　食事、排泄、衣服の着替えなどの基本的な生活習慣を身に付ける。
②　全身を使う遊び、手や指を使う遊びなどを繰り返して行い、いろいろな体の動きを楽しむ。
③　自分の好きなものや遊具、遊びなどを見つけ、楽しむ。
④　友だちの遊びに興味を持ったり、先生や友達と一緒に遊んだりする。
⑤　園生活に必要な言葉や、受入れに従事する者の簡単な指示がわかる。
⑥　ごっこ遊びなどをする中で、先生や友達と言葉のやり取りを楽しむ。

調査1の結果と照らし合わせてみると、基本的な生活習慣を身に付けること、言葉の理解ややり取りを育てること、友達との関係を図り一緒に遊びを楽しむことに関しては、保育者も重視し

ている。しかし、幼稚園教育要領や保育所保育指針の基本的な考え方である「自発的な遊びを通してねらいが総合的に達成されるように」の中核をなす、「遊び」や「環境構成」について保育者はあまり重視していない。

3　調査2「幼稚園の2歳児の春の様子」について

3－1　調査結果

調査2では、保育所と幼稚園それぞれの2歳児の春の様子についてグループワークを実施し、「2歳児の春の様子」について抽出した。本論では、保育者の大切していることと関連させて考察するため、幼稚園のみの子どもの様子を取り上げる。

表2　幼稚園の2歳児の春の様子

（N=61）

言葉	理解	・聞いた言葉は理解できる。 ・大人の言うことは理解できる。 ・自分の名前がわかり、呼ばれたら「はい」と言えたり、手を上げたりできる。	3
	発語	・二語文を話す。 ・おもちゃを取られたときなど手が出る。 ・言葉で表現することが難しい。 ・自分の意志はうまく言葉で伝えられず、先に手が出てしまう。 ・「んー、んー」と言って自分の欲求を伝えようとし、大人を動かそうとする。	5
	個人差	・上にきょうだいがいる場合には、言葉が早い。 ・きょうだいの有無で言葉の差が激しい ・言葉が出ない子がいる	3
身体機能		・階段の上り下りができる	1
身辺自立	食事	・保育者に食べさせてもらう。 ・食事は介助が必要 ・ハサミを使って給食を細かくしてもらい食べる。 ・スプーンを使い、マナーはできている。 ・偏食も出始める	5
	睡眠	・昼寝時、なかなか眠れず寝かしつけるまでに時間がかかる	1
	生活	・ひとりで靴が履けない。 ・洋服の着脱ができない。	2
	排泄	・全員、おむつを使用。 ・まだ完全におむつがとれていない。半分くらいはおむつをしている ・促されて大人と一緒に行く。 ・出てから教える。 ・お尻がふけない。 ・和式のトイレができない	6
遊び	操作	・指先を使った穴通し、ひも通しなどの遊びを楽しむ。 ・シール貼を延々と続ける。	2
	表現	・歌や踊りを楽しむ。 ・音楽に合わせて一緒に踊ったり、喜んで手遊びをする。	2

	友だち	・他の子どもの行動をまねる。 ・年長児と仲間遊びができる。 ・皆が遊んでいる姿を見て、たちすくみ、遊べない子がいる。 ・一人一人ばらばらの動き	4
	イメージ	・ままごとコーナーで自分の気に入ったものを皿に並べる。 ・ごっこ遊びを楽しむ。	2
	興味	・興味を持った遊び、おもちゃにとびついていく。 ・興味があると周りが見えなくなり、前に出てくる。 ・ひたすら走っている。思いのままに一目散に。	3
自己		・したいことを伝えようとするが、大人に依存する。 ・言われたことになんでも「イヤ」と反対する。 ・好き嫌いがはっきりしてくる。（遊び、食べ物） ・自己主張が強くなり、着るものにこだわったり、自分でやりたがったりする。	4
子どもの内面		・泣いて泣き止まない。 ・保育者のそばにいて手をつないで安心している。 ・動かない。 ・母親から離れられない。「ママ」と親から離れない ・親の存在を確認しながら遊ぶ。 ・人見知り、場所見知りをする。 ・慎重。新しいことにすぐに飛びつかない。 ・思い通りにならないときに、だだをこねたりかんしゃくを起こす。 ・感情が豊かになる。	9
人間関係		・自分だけの世界 ・なんとなく目線が合わない、こだわりがある。 ・他者を受け入れない ・回りを見れるようになる。 ・周囲の様子をうかがっている ・譲り合うことや順番はわからない。 ・友だちに譲ったり、分け合ったりしている様子を保育者に褒められたり、友達に「ありがとう」と言われるとうれしがる。	7
個人差		・月齢差、個人差が大きい（生活の自立など） ・個人差が激しい（体の動き、言葉、歌う子歌わない子）	2

・身辺自立に関する記述が、14件で最も多くなっている。そして身辺自立に関する記述は、「～できない」や発達的に考えてややゆっくりである記述が、9件となっている。
・次に多いのは遊びに関する記述で、13件あった。遊びに関する記述については否定的な表現は少なく、「たちすくみ、遊べない子がいる」のみであった。
・3番目に多かったのは言葉に関する記述で、11件であった。内容としては、「理解」、「発語」、「個人差」に分けられた。個人差が大きく、言葉でうまく伝えられない子どもがいる様子が推察される。
・4番目に多かったのは子どもの内面に関する記述で、9件であった。不安を感じて、泣く、離れないなどの記述が7件を占めている。
・5番目に多かったのは人間関係に関する記述で、7件であった。他者を受け入れない様子から、周囲を見て伺う様子、友達との関係が取れる様子など様々な様子が記述されている。
・記述を総合的に見ても推察されることであるが、個人差が大きいという記述も2件あった。

3－2　考察

1）個人差の幅が大きい

3歳までの時期は、言葉や運動能力、身辺自立など目に見える発達において個人差が大きい時期である。幼稚園における2歳児保育･未就園児クラスの子どもに対して、言葉や身辺自立がゆっくりであったり個人差が大きいと感じるのは、当然のことであろう。しかし、排泄や食事の自立の様子、言葉での意思表示などの様子を読むと、個人差の幅がかなり大きいものと推察される。

2）遊ぶ子どもたち

春には、母親から離れず不安を感じている子どもが多くいるのだろうが、遊びや人間関係の記述に多様性が見られるように、徐々に幼稚園という場を楽しむようになっていると考えられる。遊びについての記述を見ると、肯定的な記述が多く、子どもたちが幼稚園での遊びをそれぞれ楽しんでいることがわかる。

4　総括

調査1と2の結果、そして文部科学省の通知から総括すると下記のような課題が明らかになった。

1）2歳児の実態を捉えた年間の指導計画の必要性

幼稚園の2歳児保育・未就園児保育にとって、保育所の2歳児保育は参考になるのだろうか。文部科学省通知では、2歳児の受入れに従事する者の資質向上について、2歳児の発育・発達への理解を深めるようにと記載されている中に「保育所における2歳児保育の実際を見たり体験するなどして､2歳児の発育･発達や保育の在り方についての研修を行うことが有効である」とある。確かに、遊びの環境構成、3歳からの幼児期とは異なる保育方法など学ぶべきことはあるだろう。

今回保育所2歳児クラスの春の子どもの実態については報告しなかったが、保育所2歳児クラスの子どもと幼稚園2歳児クラス・未就園児クラスの子どもは、それまでの成育歴から異なる実態がある。子どもの実態を捉えた上で保育計画を立てるべきであり、また保護者と連携しつつ子どもの発達を援助していくことは、子どものこれからの育ちを考えるとき重要な視点である。

2－2の考察で述べた通り、基盤となる関係や環境作りが重視されているが、その後の子どもの遊びや環境構成についてさらに研鑽を重ね、その重要性を認識し、保育者としての資質の向上を図る必要があるだろう。これまで筆者が調べた先行研究では、2歳児クラスの指導計画や保育内容について論述されたものは2件であった[4,5]。多くの幼稚園において2歳児クラスや未就園児クラスが実施されていることを考えれば、実態にあった実践研究や検証が行われ、保育の質向上を目指すべきと考える。

2）保護者支援の必要性

調査2では、子どもの春の実態は個人差が大きく、2歳児の育ちとしてややゆっくりな子どもが多くいることが示唆された。今回の調査では、子どもの様子のみに限って調査したため、保護

者の様子はわからなかったが、このような2歳児の実態や2歳児保育・未就園児保育が子育て支援として位置づけられていることを考えると、保護者支援や保護者との連携の必要性の意識を保育者が持つことが課題であろう。

現在では、幼稚園において1歳児からのクラスを実施している園もあるという。園児確保の方略としてではなく、真に子どもの健やかな育ちを願って、適切な子育て支援の方法および内容を考えるべきである。

3）3歳未満児の保育の特性についての理解を図ること

現在1歳児向けの教室が地域で開かれるようになり、参加する親子も散見される。そこでは、先生のお話を座ってしっかり聞いたり、先生の指示に従って行動したりすることが求められ、そのような指示や状況に素直に従う１～２歳児の姿がある。素直に従わず自分の主張を強く伝える子どもの姿が見られて当然の時期であるが、逆にそのような子どもを育てている保護者は、他の子どもと同じにできないと焦ってしまう。

幼稚園教諭として勤務していた者が、3歳未満児の保育を担当する場合には、3歳以上児のクラスとは異なる発達特性、保育方法の特性についてのさらなる理解が必要である。

幼稚園における2歳児保育・未就園児保育は、子育て支援の一環として位置づけられているが、特性をふまえた保育内容、保育方法の構築、子どもだけでなく保護者も含めた指導計画の作成が、幼稚園として独自に図られる必要があると考える。そして、家庭における子育て環境と子どもの育ちの変化を踏まえた保育者の研修の機会を設けることが急がれるであろう。

引用・参考文献

1）榎田二三子 「幼稚園教諭の専門性に関する研究動向―2歳児保育における専門性―」武蔵野大学教職研究センター紀要　第3号　2015

2）ベネッセ教育総合研究所 「第2回　幼児教育・保育についての基本調査　報告書［2012］」
http://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4053
2012年10月～ 12月に調査実施。有効回答数は国公立幼稚園456園、私立幼稚園1362園

3）文部科学省　初等中等教育局長 「幼稚園を活用した子育て支援としての2歳児の受入れに係る留意点について（通知）」平成19年3月31日

4）柏まり、栗岡明美、田中亨胤「幼稚園教育課程にゆるやかにつながる2歳児保育計画（1）H幼稚園における2歳児保育計画の編成プロセス(幼児教育)」『教育学研究紀要』 57-2　pp.557-562　2011

5）斎藤洋子 「2歳児の楽しい生活」『高岡法科大学紀要』20　pp.77-121　2009

6）文部科学省 「幼稚園教育要領解説」2008

7）厚生労働省 「保育所保育指針解説」2008

8）坂上裕子、金丸智美、武田（六角）洋子「片付け課題における2歳児の従順行動･不従順行動の経年変化:2004・2005年度と2010・2011年度の比較から」『発達心理学研究』第27巻　第4号　2016